

平成28年度第1回富里市産業振興推進会議議事録

- 1 日 時 平成28年8月3日（水）午後2時から午後3時25分
- 2 場 所 富里市役所3階第3会議室
- 3 出席者 本多円佳委員，鈴木世津子委員，寒郡茂樹委員，根本実委員，飯寄富雄委員，藤崎綾子委員，原幸司委員，田中英之委員，二川健一郎委員，櫻井優好委員，中山健アドバイザー
富里市長
(事務局) 市民経済環境部長，商工観光課長，商工観光課事務局

〔会議次第〕

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 議 題
 - (1) 会長・副会長の選出について
 - (2) 会議の公開について
 - (3) 会議の運営等について
 - (4) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

〔会議概要〕

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付（市長より委嘱状の交付）
- 3 市長あいさつ
- 4 委員紹介

事務局

本日の会議は、委員委嘱後最初の会議となるため、会長が選出されるまでの間、事務局で会議の進行を務める。

本日の会議の定数の報告をした。過半数以上の委員の出席があるので、富里市産業振興推進会議の運営に関する要綱第3条第2項の規定により会議は成立している。

議題に入る前に富里市産業振興推進会議について、又産業振興基本条例について事務局から概略等を説明する。

（資料5により説明）

5 議題

(1) 会長・副会長の選出について

委員の互選により寒郡委員を会長に選任した。

会議の進行は、富里市産業振興推進会議の運営に関する要綱第3条第1項の規定により会長が行う。

市長は公務のため退席。

（市長退席）

副会長の選任について

議長が櫻井委員を副会長に指名し選任された。

議 長

議題の(2)会議の公開について

事務局

（資料1，2により説明）

委員から意見がなく、会議は公開することに決定した。

傍聴人はいない。

議 長

議題(3)会議の運営等について

事務局

(資料6により説明)

議 長

産業振興全体のビジョン、アクションプランの部分まで議論することは、非常に多岐に渡り専門的でもあるので、この会議ですべてやることは難しいと思う。作業部会という組織を作って一つ一つ煮詰めて行くということを提案があった。その進め方等について委員から意見を求める。

B委員

ビジョン作りのプロセスの出発点は、徹底的に現状を認識するところから始まる。どのように現状を認識するかというと柱は二つある。

一つは統計的に分析すること。統計的な分析を持って現状を認識する。

もう一つは地域の方々の意見を聞くという方法である。

まず、統計的な分析をもって現状を認識することについては、どうしても限界があって、例えば富里市だけを切り取って、詳細な調査をして分析をするとお金も人手もかかる。やはり、一番参考にしているのは国の白書で、使える有効なデータが満載されている。それを富里市に準用できる部分がたくさんあると思う。国、県が出している統計、或いは富里市独自で出している統計的なものを、現状認識のために集めて理解して分析する。

もう一つは、市内の事業者の意見をどうやって吸い上げるのか。私共は地域勉強会といって、例えば職員が商工会の青年部の例会で30分位時間をいただいて、意見交換により事業者の生の声を聞くという手法を取っている。

まずは、ビジョン作りのためには現状を把握して課題がどこにあるのか、その課題を乗り越えるためのビジョンになると思う。

次に、ビジョンをいつまでに作るのか。作業部会で集めた統計的なもの、議論の素材になるものを今後の2回目、3回目の会議で議論して、重点的に取り組むものを決定し、議論すべき課題を決める。ロードマップを作らないと、効率的な検討ができにくいと思う。まずは現状をきちんと認識し、課題がどこにあるのか、みんなで共有することが必要だと思う。

アドバイザー

まずは、現状を分析するところから始める。現状分析には外部の環境分析と内部の環境分析の方法がある。

外部とは一つに政策である。国、県の政策がどうなっているのか。それから実態を分析する。業種別の分析になると思うが、農業、商工業、観光と業種別に実態がどうなっているのか分析してすると課題が出てくる。

その課題解決のためには内部の分析が必要となる。内部とはリソース、経営資源である。富里市にどんな経営資源があるのか。人、物、金、情報、技術と、様々な資源の中で、富里市が発揮できる強みはいったい何なのか。強みも弱みも認識した上で課題をどのように解決して行くのか。課題解決のための、ロードマップは作らなくてはいけない。

議長

作業部会に移るにしても、今議論した方が良いのではないかというご意見があればお願いします。

まず私から、富里の商工業者の93パーセントは小規模事業者なので、どうしても小規模企業施策のことが一番のメインになる。その中でヒアリングをしていくと小規模事業者のうち、親族として後継者がいない事業者が8割近くになる。親族に承継できないのであればどうするのか。会社であれば従業員の方に、或いは第三者に承継することも考えられる。事業承継が一番の課題だと思っている。

では、J委員さんから順番に意見ををお願いします。

J委員

私は商工会青年部に所属して日が浅いが、意見を吸い上げる機会を持てると思った。どういう視点で、どういうことをヒアリングしたらいいのかということとを相談して具体的な回答を得たいと思った。

富里にこれは欠かせないもの、富里でやって行けるといふもの、これは生かせるというものがあり、それを繋ぎ止める施策をやれば、事業者の方々もより安心すると思う。

観光についてはこれからだか、観光の一つにフィルムコミッションがある。これは全国でやってはいるが、ロケの回数は、富里市が日本一である。一つの市に多くの番組や映画がロケに来ている。それを活用しない手はない。やり始めたのが日吉台だが、ロケ場所として農地とか小学校の空き部屋とか、いろいろなところから富里の景色や場所を提供してもらうことで、新たなきっかけ作

りが生まれる。みんなで知恵を出し合い、協力して地域一体となってやっていく。リソースも考えて増やして行ける気がする。

I 委員

富里にたくさんの人に来ていただいて、お金を落としていけるような何かを考えていければ、もう少し発展して行くのではないかと思う。

G 委員

今年はテレビ番組等でスイカを取り上げた番組が多かった。今は、キリンビールが一番搾りのコマーシャルの各県版が放映されている。千葉県産のピーナッツをつまみに一番搾りを飲む内容だが、これには農協の職員も出演している。

富里の宝であるスイカのことだが、市ではスイカオーナー制度というのをやって新聞にも載せてもらった。また、スイカまつりの共進会で出したスイカを大田市場でセリをやった。

今年の出荷量は前年より減っているが、売り上げは前年度より上がった。手取りがよければ農家も継続して行く。収入が下がれば体が楽な農産物に変更してしまう。夏にんじんも今値段がいいが、やはりスイカをやってもらえる体制を市には継続して応援してもらいたい。

農家もスイカまつりやスイカロードレースは、自分たちがやらなければならないものであるという達成感もある。

F 委員

私共も人手不足、後継者不足の課題がある。いかに若い夫婦を富里市に勧誘するか。市も若い夫婦が引越ししてきたら、年何百万補助するとか、スイカ作りを勧めるとか、そんなアイデアがあったら良いと思う。

E 委員

千葉県内外の人と話す機会があるが、県内の人には富里市を知っているが、県外の人には富里市がどこにあるのか知らない。まだまだ富里市は知られていないと思う。富里市の強み、一つはスイカだと思う。今年は沢山のメディアも使って、発信してきたつもりだが、もっと県内外の人に富里市を知ってもらいたいと思っている。

D 委員

富里市は成田空港の隣接自治体なので、その効果が地域経済、住み良さに波

及してこないといけないと思う。あらゆる関係する団体、個人、行政と協調性をより強く持って進めていくと良いと思う。地元の中小企業、小規模の経営者を巻き込んで、意見を聞いて、彼らをもっと活動できるようにする。彼らの会社が安定しないと活動もできないので中小企業の振興も重要になる。

富里市の中で、どこのエリアで商業を活性化させ、どこでは住環境を整えて、どこでは農業の生産地として整備するのか。せっきくの機会なので、市民が使いやすい計画を一緒に検討していただけると大変ありがたい。

C 委員

企業誘致を含めてどこの企業でも入れるような計画が良い。建物が建てば人口が増える、活性化するためにはそれが一番ではないか。簡単ではないが、そうすれば企業が増えると思う。

第二工業団地も去年下水道がやっと接続したという状況である。千葉県全体として下水道が遅れているから地価が安い。地価が安いので人気がない。これについては、埼玉県と比較する人が多くて、埼玉は下水が進んでいるから地価が高い。電車も整備されて、東京圏に通勤できるから地価が上がる。

産業振興ビジョンを作るには、作業部会がまず先ではないかと思う。問題点を出して、目標設定をしてその目標に対してどうやって進めていくか。作業部会でのリーダーが会議を設定して、そこから結果が推進会議にあがって来ると考えている。

A 委員

マーケット戦略の関係からいうと、スイカという生産ブランド品の効果を最大限に発揮するためには、時期が限定されても更なる生産力やクオリティーがあれば、後継者が生産力に応じた所得を得ることもできるし、後継者不足も解決できるのではないか。

空港の将来的な構想発展も含めて、我々が先にこの問題を提起して解決しないと。先程、公共下水道の話も出たが、企業が決まってから公共下水道を作るのではなく、公共下水道が設営されているところに企業が手を挙げて入って来るといった感覚を持った対応策を考えなければいけない。産業振興基本条例の施行に伴って、いろいろな角度から結果が伴う本当の戦略を見直さないと、富里市は立ち遅れるどころか、取り残されてしまう。

B 委員

これから特に重点を置いて議論したいことは、事業承継の後継者対策の問題

です。白書ではかなり大きく取り上げている。これは全国的な問題で、1980年代は経営者の方が一番多かったのは40歳代だったのが、今70歳代になっている。事業を続けたいけれど後継者がいない方に対するアプローチが、国、県の大きな課題となっている。市の中で取れるデータは取って行かなくてはいけない。具体的に県と市が役割分担をしながら何ができるのか議論を深めていきたい。もう一つは後継者を何とかしないといけない。地域の企業の数を減らさないことが大事だ。地域の小さな企業は仕入れや販売を地域の中の近くでやっている割合が大きい。地域で企業がなくなるということは、仕入先と販売先の両方にダメージが出てしまう。

もう一つは創業です。富里市は創業支援計画を作った。創業と後継者対策の二本柱で地域の企業の数を減らさないことが大事である。

また、市内の企業の質的なものをどう支援して行くのか。中小企業白書に小規模企業の約半数が経営計画を作ったことがないというデータが出ている。第三者から見ると、何らかの経営計画的なものに基づいてやっていると思っているが、なかなかできていない。白書には、経営計画に基づいて経営している企業の方が売り上げや利益が上がっていることが紹介されている。経営計画の策定支援について、どこまでアプローチできるかということが大事である。

経営計画についてだが、この7月に中小企業等経営強化法という新しい法律ができた。中小企業に経営計画を作ることを国全体として支援していこうという姿勢を表した法律である。企業に経営計画を作ってもらうために、商工会、行政が支援しましょうという法律です。法律に基づいて作った中小企業の経営計画を国が認定する。認定を受けた企業に国の補助金の加点の対象とする。認定された企業に補助金が行きやすいように仕組みを作って行く。市ができること、商工会ができること、県ができることは何なのか、議論して行くことが必要だと思う。

アドバイザー

様々な産業があるが、これからは新しいものを作って行かなくてはいけない。産業間の垣根を少しずつ取り払うことが重要になってきている。政策として農商工連携が各地で活発に提案されているが、産業間の連携とか融合がこれから進んで行くだろう。地域資源をうまく活用しながら商品、サービスを作って行く。富里市は資源としてスイカ、空港、フィルム、ロードレースなどがあるので、うまく活用しながら産業間の連携を図る。スイカは季節が限定されるが、食品加工を活性化するためには農商工連携の補助金が使えらると思う。スイカを使ったスイーツを開発するとか、補助金を充てて商品を開発することは重要な

戦略にもなっている。

議 長

議題の会議の運営等についてだが、作業部会を作り、そこで作成したものを推進会議に上げて行くという形でやらしていただきたい。

J 委員

一つ質問がある。作業部会についてだが、どのように組み立てて部会が行われるのか。私達が部会を開いて意見をまとめて行くのか。

事務局

作業部会の中に委員さんが一緒に入って話をさせていただくことも重要だと考えている。作業部会のメンバー構成については、これから協議させていただきたい。

議 長

作業部会については、自由が良いと思っている。分野によって話を聞きたいこと、又、その都度テーマを決めて作業をして取りまとめた方が良いものができると思う。作業部会については、これから決めて行くことになる。

議題(4)その他ですが、何かありますか。ないようでしたら、議題を終了します。進行を事務局にお返しする。

事務局

会議次第の6その他について、次回の会議は10月中旬を計画している。

閉 会